総 務 委 員 会 資 料

所管事務の調査（報告）

「（仮称）臨海部ビジョン」の策定について

資　料１－１　「（仮称）臨海部ビジョン」の策定について①

資　料１－２　「（仮称）臨海部ビジョン」の策定について②

参考資料　１　変化に直面する臨海部の動向

平成２８年９月１日

臨海部国際戦略本部

資料１－１

「（仮称）臨海部ビジョン」の策定について①

１　ビジョン策定の背景

(1)川崎臨海部はこれまで我が国全体の経済発展の牽引役を担ってきたが、**産業構造が大きく転換**する中、**石油化学産業・鉄鋼業の企業再編や生産拠点の統合等が進められている状況**にある。

(2)高度成長期以来、生産を続けてきた**設備が老朽化し、設備更新に向けた課題が生じている**。

(3)キングスカイフロントにおいてはライフサイエンス分野の国際戦略拠点形成が進み、**新たな成長産業の核ができつつある**。

(4)川崎臨海部が直面する大きな変化を適切に乗り越え、持続的に発展し続けるためには、**本市と立地企業が長期的に目指すべき将来像や考え方を共有し、また本市の様々な施策を有効に機能させていく必要がある**。

川崎臨海部が、**本市の「力強い産業都市づくり」の中心**として**持続的に発展**し、**産業と環境が高度に調和**した地域として**日本の成長を牽引**できるよう、臨海部に関わる**様々な主体が共有できる「（仮称）臨海部ビジョン」を策定し**、臨海部の**目指すべき将来像**と、その実現に向けた**戦略、取組の方向性**を示す。

２　ビジョン策定の考え方

(1)将来の想定に基づき、**３０年後を見据えた臨海部の目指す姿を十分に議論**し、関係者間で共有する。さらに、**その実現に向けて川崎臨海部が関わる様々な主体が取り組むべき方向性や、先導的・モデル的に実施するプロジェクト**を検討する**バックキャスティング手法（注）**により策定する。

(2)策定にあたっては、有識者懇談会を設置するとともに、**企業や市民など様々な関係者へのインタビューを行い**、幅広く意見を集約する。

（注）バックキャスティング手法：長期的視野のもと実際的な計画を立てる手法として、将来の想定に基づいて、これからの道筋を定める方法論。マクロな条件をもとに、理想的な未来像を想定し、そこから現在を振り返ってみる手法。

３　ビジョンの構成

目指す姿 ＝ グローバルな将来予測を踏まえ３０年後を見据えた川崎臨海部の将来像

【目指す都市拠点像の論点】

①我が国の成長を牽引してきた基幹産業の国際競争力の維持と環境との好循環の実現

②人類の課題解決に貢献する先端科学技術を活用した新たな産業分野のクラスターの形成

③脱炭素社会に対応したスマートコンビナートの形成

④世界トップレベルの防災対策と安全安心の地域づくり

⑤港湾、空港、道路などが結節する物流拠点の形成

⑥臨海部に集う人々の生活スタイルを支える住まいや働きやすい環境の整備

⑦市民が魅力を感じる地域づくり

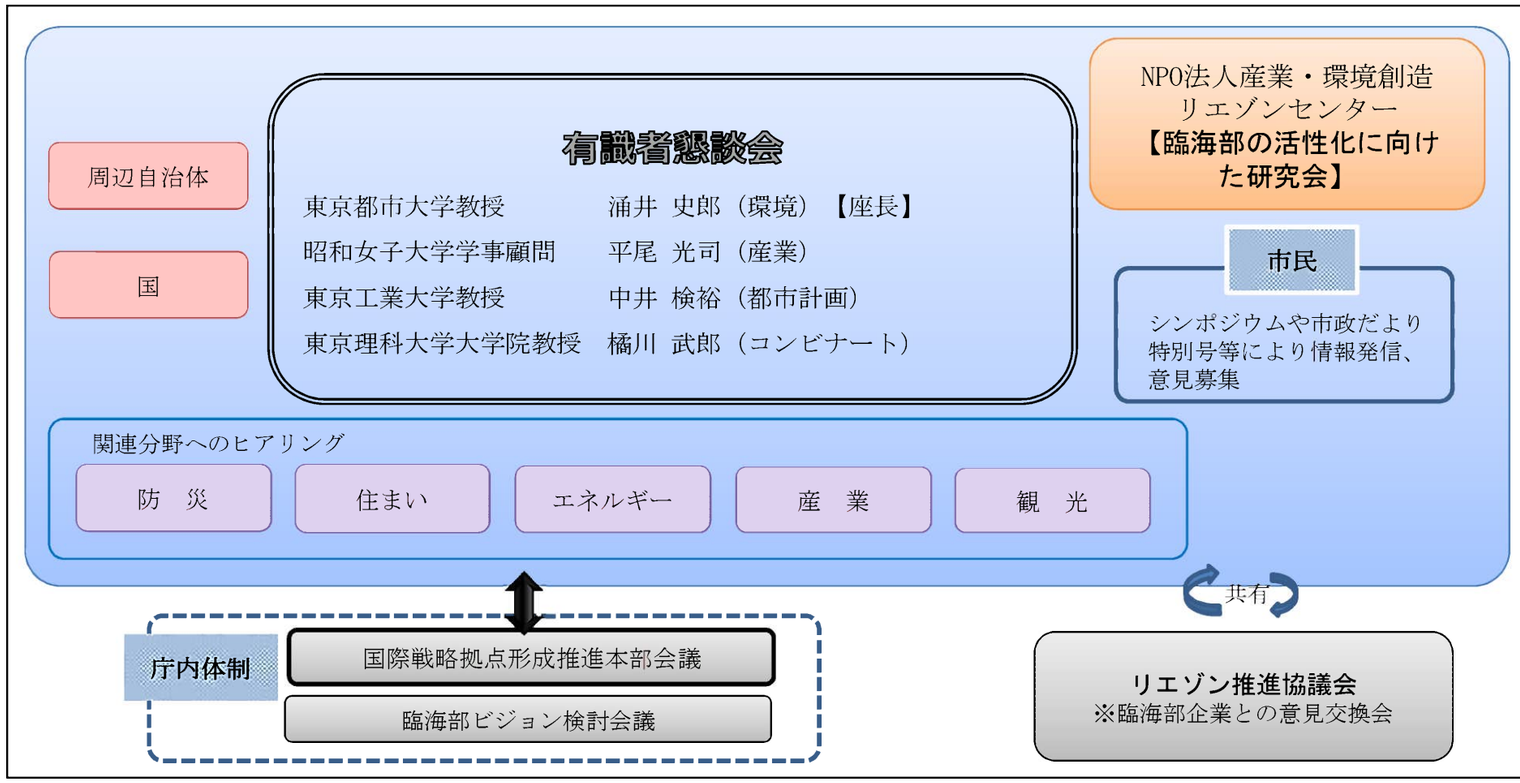
戦略・取組の方向性 ---------- 「目指す姿」の実現に向けた取組課題の整理

代表的なプロジェクト -------- 先導的・モデル的に実施するプロジェクト

資料１－２

「（仮称）臨海部ビジョン」の策定について②

４　検討体制



①有識者懇談会

専門的な知見を有する専門家により構成する懇談会を開催し、臨海部の目指す姿とその実現に向けた取組みの方向性をまとめる。

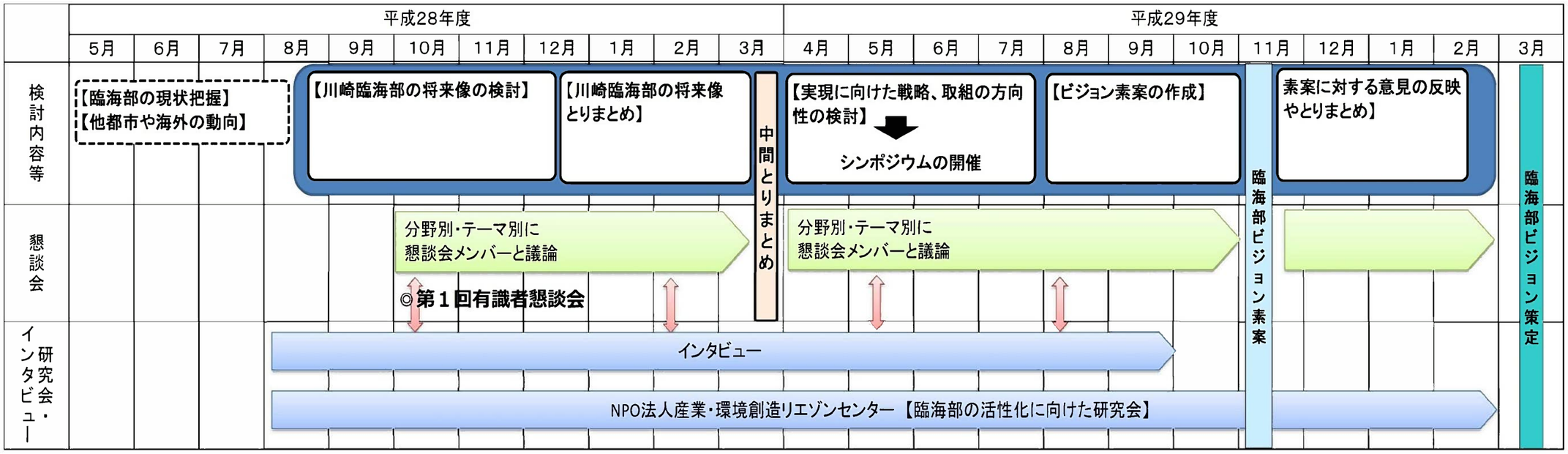
②臨海部の活性化に向けた研究会

ＮＰＯ法人産業・環境創造リエゾンセンターが中心となり、臨海部立地企業約２０社とともに、臨海部の将来像や戦略・取組みの方向性について議論し、意見をとりまとめ有識者懇談会へ反映する。

③重点的なインタビュー

多様な産業分野（石油化学、環境、物流、ライフサイエンス等）、地域（島別）の有識者や企業へ重点的なインタビューを実施し、臨海部の目指すべき将来像や、その実現に向けた取組課題について意見交換を行う。

５　スケジュール

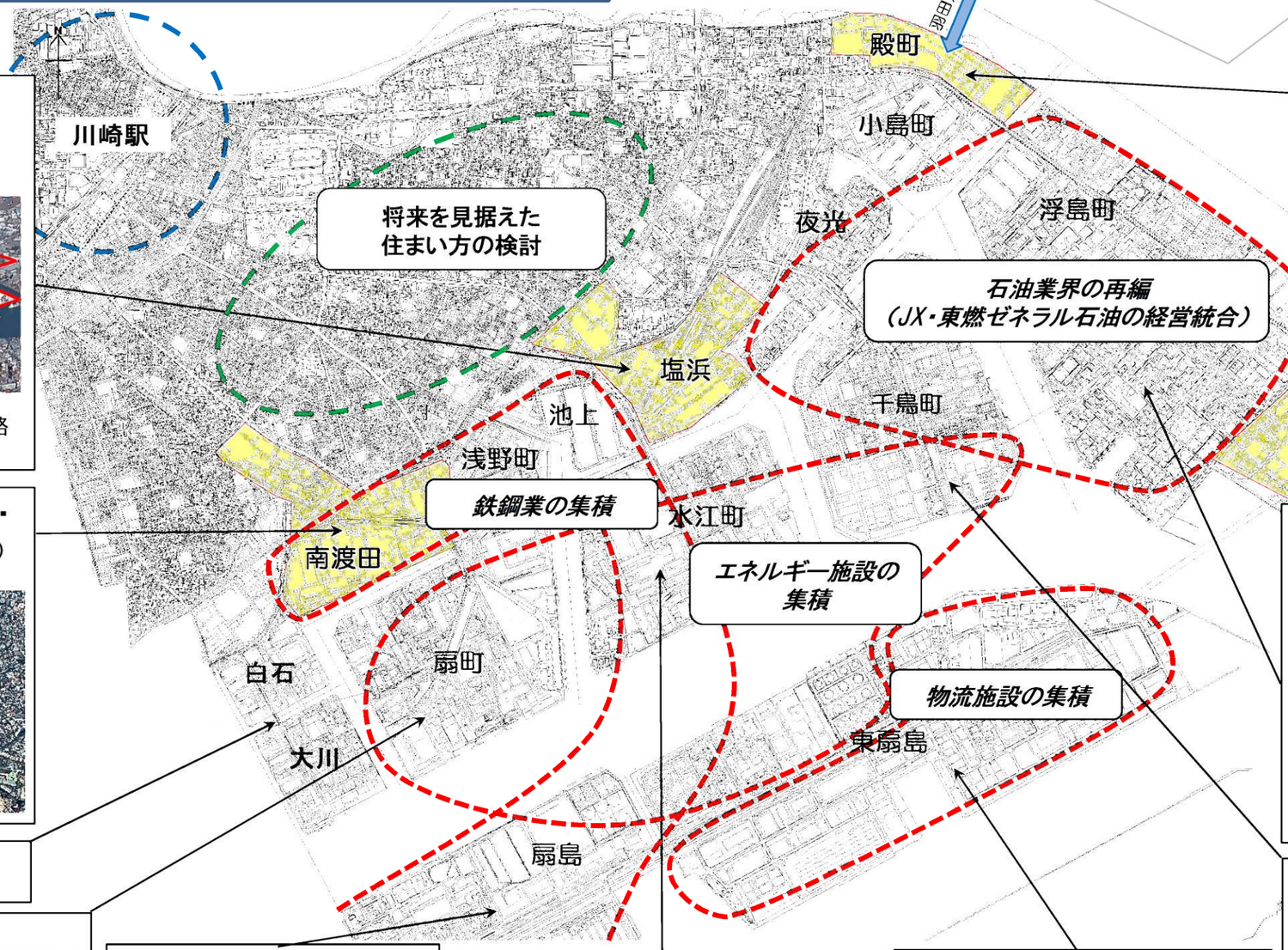


変化に直面する臨海部の動向

参考資料1

臨海部の基礎データ

面積：約2,800ha　**事業所数**：約2,300　**従業者数**：約59,000人
製造品出荷額：約3,434,000百万円※非公表地区分を含まない
※事業所数・従業者数はH24経済センサス、 製造品出荷額はH26 工業統計より



塩浜地区
（塩浜、夜光、小島町）

塩浜3丁目周辺地区の整備

○キングスカイフロント等の戦略拠点を支援・補完するエリア

浜川崎駅周辺（南渡田）・浅野町地区（小田栄を除く）

南渡田周辺地区再編整備

白石・大川地区

扇町地区

昭和シェル石油撤退（2011年）
約12ha　低利用
一部バイオマス発電所に転換（約4ha）

扇島地区

国内最大級の製鉄所
（JFE東日本製鉄所）

水江町地区

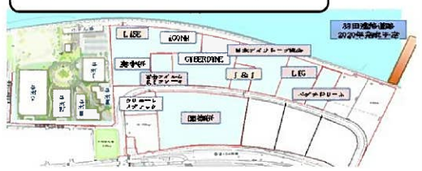
臨港道路東扇島水江町線の整備

東扇島地区

物流施設の集積

キングスカイフロント地区

殿町国際戦略拠点の形成



羽田連絡道路の整備

浮島1期地区
本格的土地利用の推進
国道357号の整備

浮島町地区（浮島1期（93ha)を除く）

JX・東燃ゼネラル石油の経営統合

日本経済新聞
JX・東燃ゼネ統合合意
石油2強に
12月2日
水曜日

千鳥町地区

日本ポリエチレン撤退（2014年）
約17.8ha　低利用